

国語科

「研究旅行」と読書指導

高木 徹

1. 研究旅行

本校では、毎年高校2年生の秋に「研究旅行」を行っている。これは他校の「修学旅行」に相当するものであるが、単なる物見遊山に終わらせないために、研究に重点を置き、「研究旅行」と称している。

昭和61年度は、萩と広島を2本の柱にして行った。まず萩に2泊し、2日目は班別行動で各班の研究テーマに従って萩の町を見学・調査し、夜は全体場で発表を行った。3日目は広島に行き、原爆資料館などの見学の後、元資料館長の高橋氏の講演を聞いた。萩・広島のいずれについても、旅行中だけの研究ではなく、夏休み前から班ごとに研究テーマを決めて事前研究を行い、その一部を9月の学校祭で発表し、10月末に旅行を終えた後は、各班で研究の成果を報告書にまとめ、それを「研究集録」という一冊の本にして出している。

なお「研究旅行」そのものについては、昭和58年度の例が、本校紀要第29集（1984年度）の白井論文に報告されているので、それを参照されたい。

2. 研究旅行とからめた読書指導

「研究旅行」に対する意識を高め、旅行を実りあるものにすることと、本を読まない生徒に読書をさせることの二つを狙って萩・広島に関連する本を、以下のように課題として与えた。

(1) 1学期期末テストの範囲として——原民喜『夏の花』と井伏鱒二『黒い雨』

(2) 夏休みの課題図書として——司島遼太郎『世に棲む日日』（文春文庫・全4巻）

(3) 2学期中間テストの範囲として——松元寛『広島・長崎 修学旅行案内』（岩波ジュニア新書）

(1) 『夏の花』と『黒い雨』

原爆文学の代表的な作品として、この二つを考えた。中間・期末と2回に分けて課題にするつもりであったが、都合で期末テスト1回にまとめて出題することになった。その問題は次の通りである。

次の各項目について、『夏の花』と『黒い雨』の両方にあてはまるものは「○」、どちらにもあてはまらないものは「×」、『夏の花』だけにあてはまるものは「花」、『黒い雨』だけにあてはまるものは

「雨」と答えよ。

- ① この作品の作者は、原民喜である。
- ② この作品の作者は、井伏鱒二である。
- ③ この作品の作者は、昭和二十六年に鉄道自殺を遂げている。
- ④ この作品は、昭和二十年代の前半に発表されている。
- ⑤ この作品は、昭和三十年頃に発表されている。
- ⑥ この作品は、昭和四十年頃に発表されている。
- ⑦ この作品は、昭和二十年八月六日、広島に原爆が落とされたという事件を中心に描かれている。
- ⑧ この作品は、昭和二十年八月九日、長崎に原爆が落とされたという事件を中心に描かれている。
- ⑨ この作品は、登場人物の日記という形で、原爆当時のことが描かれている。
- ⑩ この作品は、「壊滅の序曲」「○○○」「廃墟から」の三部から成っている。
- ⑪ この作品の主人公は、妻のシゲ子・姪の矢須子と生活している。
- ⑫ この作品の主人公は、妻を亡くして一年近くになる。
- ⑬ この作品の主人公は、原爆後数年たった今も原爆の後遺症になやまされている。
- ⑭ この作品の主人公は、通勤の途中、駅の構内で被爆し、現在は小島村で鯉の養殖などをして暮らしている。
- ⑮ この作品の主人公は、原爆が落ちた時、厠（便所）にいたので助かり、二日後、馬車で郊外の八幡村へ行く。
- ⑯ この作品の主人公には、順一・清二という二人の兄や妹がいる。
- ⑰ この作品の登場人物の一人は、放射能を含んだ雨を浴びたことが原因で、原爆後数年たって原爆病の症状が出る。
- ⑱ この作品の中の「被爆軍医予備員・岩竹博の手記」は、原爆病から奇跡的に回復した人のことが描かれている。
- ⑲ その作品の中には、終戦の玉音放送のことが書かれている。
- ⑳ この作品の中には、原爆の印象が「ガラガラノ

破片ヤ／灰白色ノ燃エガラ／ヒロピロトシタ パノ
ラマノヤウニ／アカクヤケタダレタニンゲンノ死体
ノキミョウナリズム／………」と片仮名で記されて
いる。

本当は、作品理解の深さを試す出題としたかったの
であるが、国語力のない生徒でも作品を読み、作品に
ついて少し調べてあればある程度答えられる問題とい
うことで、このようなものしか考えつかなかった。授業
で扱っていない文学作品を課題にした場合、読んで
きたかどうか、どの程度深く読んできたか、というこ
とをどうテストし、どう評価したら良いのかもっと良
い方法を模索して行きたいと考えている。

(2) 『世に棲む日日』

文庫本で4冊、計1000ページをこえる長大な作品だ
が、話は読み易いので、夏休みの課題としては良かった
と思っている。これも『夏の花』や『黒い雨』と同
様、とりあえずは読ませることだけを目的とし、粗筋
を書かせるという形でテストを行うことをあらかじめ
予告しておいた。テストは9月の最初の頃の授業1時
間を使い、字数は500字以上という指定で、作品の持
ち込み可で行った。この作品は、前半の主入公が吉田
松陰で、後半の主人公が高杉晋作であるので、吉田松
陰と高杉晋作のどちらかを選択させ、その生涯を
『世に棲む日日』に基づいて書かせた。評価は、内容
と字数から5段階で付けた。

この作品の中では、吉田松陰や高杉晋作を始めとす
る幕末の人物が実に生き生きと描かれているので名前
だけは知っていた生徒や、あるいは名前すらも知らな
かった生徒も、松陰や晋作を身近に感じながら萩の町
を見学できたはずである。

(3) 『広島・長崎 修学旅行案内』

広島原爆について、非文学の本も読ませたいと思
い、大江健三郎の『ヒロシマ・ノート』などの他の本
も考えたが、結局これにして、「研究旅行」直前にあ
る2学期中間テストの試験範囲に含めた。この本の中
では、「被爆体験の風化」あるいは「被爆体験の継承」
という問題についてかなり述べられているので、「被
爆体験の継承」という題で300字以上の文章を書け、
という問題を出し、内容・字数から5段階で評価をし
た。以下に生徒の解答例の一部を紹介する。

被爆体験の継承 高2女子

一見、容易に思えるこの「継承」を、生まれた
ときから平和で、何もかもがそろっていた私達に
どれだけ確かに行けることができるだろうか。広島
に行けば、被爆者の遺品などを資料館等で見ること
ができるが、そこで受けたショックがいかに大き
くても、それまでが一時的なものであったなら
ば、わざわざ広島まで行く意味がないと思う。こ

こにいたって原爆について知ることはできるのだから。
では、どうしたらもう一度原爆を落とさずに「被爆体
験の継承」ができるだろう。(略)

被爆体験の継承 高2女子

「被爆体験の継承」とは非常に重要なことである。
しかし私達、非体験者にとって言語を絶する体験だ
ただけに実感しにくい。(略)今こそ、全世界の人々
に核兵器の恐ろしさを知ってもらって、核兵器がな
くなるようにすべきであろう。それが真の「被爆体
験の継承」なのだと思う。ただ恐ろしいとか苦しかった、
かわらがとけて……というのは「継承」と言えない
と思う。ヒロシマ・ナガサキという過去より、未来を見
て、未来の為に「継承」しなくてはいけないと思う。
そうすれば「被爆体験の絶対化」「風化」も問題にな
らないと思うが、どうなのだろうか。

3. 結 び

以上のように、「研究旅行」の見学地である萩・広
島に関係のある本を数冊読ませた上で、旅行を行った。
試験範囲に含まれるということで、大半の生徒は一応
は課題をこなしてきたようであった。「研究旅行」の
側から見れば、無理やりさせられた読書ではあっても、
そういった読書から得た予備知識があるとなしでは、
旅行に対する取り組み方、旅行から得るものが大きく
違ってくるはずで、数冊の読書は十分に意味のあるこ
とであったと思う。

一方国語の読書指導という側から見ると、課題をこ
なしてきたかどうかを見るのにテスト以外の方法はない
のか、テストをするにしても内容読解の深さをはか
る出題方法はないのか、さらに言えば、無理やり本を
読ませることで果たして効果は上がるのだろうか、等々
いくつもの問題を残している。この点については、諸
先生方のお教を乞う次第である。

<お詫び>

昨年の紀要の拙文、『『国語表現』の学習指導』で、
資料1～3が落ちていましたので、次に掲載しておき
ます。

文章推敲のポイント(主に形式面から)

〔文字など〕

○誤字・脱字はないか。

○漢字で書ける字まで、平仮名で書いているところはないか。

○他人には読みにくいようなくせ字はないか。

○句読点はしっかり打ってあるか。

○数字は、縦書き―漢数字、横書き―算用数字、が原則。

〔原稿用紙の使い方〕

○段落の最初は一マス空けてあるか。

○行の一番上に句読点を打ってあるところはないか。

○「」()などに一マス使っているか。

〔その他〕

○内容の切れ目と段落は一致しているか。

○他人が読んで、意味のつかみにくい表現はないか。

○文章全体のつながりは、うまく行っているか。

(飛躍したり、前後で矛盾したりしないように気を付ける。)

○全体の構成はどうか。

「国語表現」夏休みの課題

「最近の若い者は、手紙一本満足に書けない。」ということがよく言われます。一方で実にまめに、自由な形式で、手紙のやりとりをしているという現象も、よく見受けられます。

これらのことは、自分の意志や思いを、標準的な「手紙の書き方」の形式の中で書くことの難しさを表しているように思います。

この夏休み中に、そういった形式・内容ともに整った手紙を、書く練習をしてみましょう。

形式…プリント等を参考にして、標準的な手紙の書き方を守ること。

・縦長の標準角封筒を使用すること。

・縦書きの標準的な便箋を使用すること(三枚以上)

内容…単なる近況報告だけでなく、高校生活の大半を終えた現在の心境、大学や就職を含めた将来への思い等、自己の内面を見つめた、小論文風のもの。

宛先…A組 千四六四 名古屋市千種区北千種一―九―九仲田住宅RN十六

酒井 為久

B組 千四五一 名古屋市西区大金山二―十九―二

斉藤 真子

C組 千四五〇 名古屋市中村区名駅南二―十二―六

高木 徹

提出…次のア・イの何れか。

ア 八月二十一日以前に、切手を貼って投函。

イ 八月二十一日に、封筒に入れて学校で提出。(封筒の表裏もきちんと書くこと。)

評価…形式・内容両面から評価し、二学期の評価に加える。提出期限に遅れたものは減点し、未提出は零点として扱う。

